

## 事例 05

息子（18歳男子少年）は、中学生の時から非行少年の仲間に加わり、高校在学中に傷害事件を起こして少年院に送致され、高校を中退した（現在も少年院入院中）。在院中に教官や保護司から話を聞くうちに、大学進学にも関心が出てきたもよう。しかし、元の高校には戻りたくないし、今からでは遅いのではないかと諦めかけている様子。どこに相談すればいいのか教えて欲しい。

相談者：両親

A

## 東京都教育相談センター

**i** 子供の教育に関わるさまざまな相談（進路、不登校、いじめ、高校転編入・中途退学等の相談）を受け付け、電話・来所相談等で支援を行う相談機関

- まずは進路選択にあたってさまざまな相談を受け付けてくれる同センターへの相談を促した。電話で問い合わせたところ、在院中にできること、出院後の選択肢などを教えてくれ、今後の情報取得の助けになるよう、同センターの青少年リスタートプレイスへの登録を案内されたとのこと。
- 高卒資格の取得には、再び高校に就学して卒業することが必要であるが、それ以外に、高等学校卒業程度認定試験を受験し、高校卒業同等以上の学力があると認定される方法もあると言われた。
- また家計的な不安についても相談し、奨学金制度の利用や、全日制、定時制以外に**B** 通信制高校の案内も受けることができたとのこと。
- 本人が出院した後の、親としての不安を伝えると、教育相談一般の来所相談を案内され、これからも支援してもらえると安堵した様子。

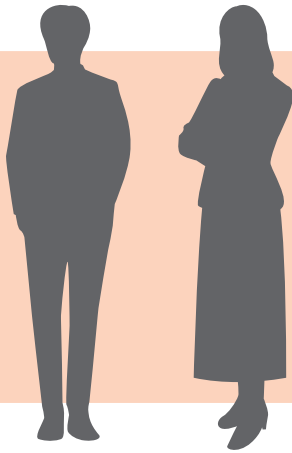
出院後、  
就学を目指す場合

就学の場合、通信制高校のほか、全日制や定時制の高等学校に復学する選択肢もあります。

出院後、  
高卒認定試験の  
合格を目指す場合

## 支援のポイント

- ✔ 高卒資格取得のための選択肢の理解
- ✔ 各種支援制度の活用



### 相談内容

息子はどうすれば再度高校に入学したり、その先の大学・専門学校へ進学したりできますか？

## B 通信制高校

**i** 主に自宅などで学習し、定期的にレポートを提出して添削指導を受けスクーリングを行い、テストを受けて単位を修得する高校

- 家計的に全日制、定時制の学費支払いが厳しいということと、本人もアルバイトをして貯金もしたいということで、学費が安く、働く時間がつくりやすい通信制高校を選択することにした。
- 3年程度をかけて生活スタイルを整え、家族で過ごせる時間をとりながら卒業を目指すとのこと。

## C

学費等の経済的支援については奨学金制度

**i** 経済的困難が理由で進学、就学ができない人に対し、貸付もしくは給付により、学費を援助する制度です。

高校を卒業

大学・専門学校の受験等

## 高等学校卒業程度認定試験

**i** さまざまな理由で高等学校を卒業できなかった人のための制度。合格すれば高校卒業と同程度の学力があると認められ、大学・短大・専門学校の受験資格が得られる。

また、高等学校卒業者と同等以上の学力がある者として認定され、就職、資格試験等に活用することができる。

ただし、最終学歴は高等学校卒業とはならない。

- 保護者は本人にも家計を支えてほしいと考えているので、在院中から高卒認定試験の合格を目指して勉強することとなった。
- 出院後は、東京都教育相談センターから試験の案内等を受けながら、通信教育を活用して勉強していくとのこと。

高卒認定試験合格証明書の取得

卒業または高卒認定試験合格証明書取得後、さまざまな職業への可能性を広げるためにはこちらへ

⇒P.24  
「仕事についての相談  
(少年・若年者)」へ



## 活用できる機関・団体や制度

### A 東京都教育相談センター(青少年リスタートプレイス)

概要	高等学校を中途退学した方や高等学校での就学経験のない方、小学校や中学校で登校しづりや不登校の状態にある方やその保護者等、進路についての情報や助言を得にくい状況にある方を対象に、都立高校についての情報提供や、都立高校への就学支援を行います。	
対象	原則として高校生相当年齢までの方とその保護者等	
主な支援内容	リスタートのための学校説明会	特色のある教育課程を実施している都立高校(チャレンジスクール、昼夜間定時制、通信制等)の学校説明会を行います。
	就学サポート	高等学校を中途退学した方等(現在どの学校にも籍がない方)本人に対し、都立高等学校への就学に向けた支援を行います。
連絡先等	リスタート登録のご案内 ☎03-3360-4192 [受付時間]月～金(祝日・年末年始を除く) 9:00～17:00	
URL	<a href="https://e-sodan.metro.tokyo.lg.jp/works/restart/index.html">https://e-sodan.metro.tokyo.lg.jp/works/restart/index.html</a> (「青少年リスタート」で検索)	

※東京都教育相談センターでは、「青少年リスタートプレイス」のほかに、教育や子育て等に関する相談事業も行っています。

### B 通信制高校

概要	基本的に自宅などで自主学習し、定期的にレポートを学校に提出して添削指導を受け、スクーリング(面接指導)を行い、試験を受けて単位を修得する高校です。公立と私立があり、全日制・定時制と同じ高校卒業資格を取得できます。自主学習が基本ですが、私立学校のなかには、全日制のように週5日、または週1日や3日など、通学コースを設けているところもあります。自由な時間が作りやすいため、仕事をしたり資格の勉強やスポーツなどに励んだりしている人も少なくありません。勉強のペースや単位の取り方など、自由に選べる点が大きな特徴です。	
特徴	都立通信制高校	<ul style="list-style-type: none"> <li>一橋高校、新宿山吹高校及び砂川高校で募集を行います。</li> <li>基本的に自主学習で、レポートを提出し添削指導を受けます。</li> <li>年間に20～24日間ほど学校に通って直接授業を受けるスクーリング(面接指導)があります。</li> <li>全日制及び定時制高校と同じ高校卒業資格を取得できます。</li> <li>高校卒業を目的としているだけでなく、大学進学対策にに応じているところもあります。</li> </ul>
	私立通信制高校	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京都認可校は8校です。大原学園高校、NHK学園高校、科学技術学園高校、北豊島高校、聖パウロ学園高校、東海大学付属望星高校、目黒日本大学高校、立志舎高校</li> <li>添削指導、面接指導及び試験を基本として、各学校がさまざまな教育をしています。               <ol style="list-style-type: none"> <li>①テレビ放送、インターネットなどのメディアを使って学習できる。</li> <li>②自主学習が苦手な生徒のために、通学コースを設けている。</li> <li>③技能連携校とのダブルスクールにより、専門科目を学びながら高校卒業を目指すことができる。</li> <li>④高校卒業を目的とするだけでなく、大学進学対策にに応じている。 など</li> </ol> </li> </ul>
連絡先等	インターネットの通信制高校のポータルサイトや、各学校にお問い合わせください。	

### C 奨学金制度

東京都や区市町村などでは、都内の経済的に困難な家庭に対し、児童・生徒の学業を支援する事業を行っています。事業ごとに、目的や貸付けの条件が異なりますので、詳細についてはホームページをご確認ください。  
[https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/admission/tuition/tuition/enrollment\\_support.html](https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/admission/tuition/tuition/enrollment_support.html)

# 親・家族のSOSを受け止めるために

特定非営利活動法人非行克服支援センター副理事長  
あめあがりの会代表 春野すみれ

これを読んでいるあなたは、支援者の方でしょうか？あるいは社会生活がうまくいわずに困っているご本人でしょうか？我が子で悩んでいる親御さんでしょうか？

親御さんには、「本当にお疲れさまです。よく、ここまで頑張ってくれましたね」とお伝えしたいです。支援者の方には、「支えてくださってありがとうございます」と心からのお礼を、ご本人には、「ここからがスタートですね」とエールを送りたいです。

「非行克服支援センター」は、子供のことで悩んで困っている親御さんを支え、そして、頑張っても思うようにいかずに苦しんでいる若者本人への支援もあわせて行っています。

子供に問題が起きると、「親の子育てが悪い」と言われ、つらい立場に追い込まれます。でも、親や家族は、もがいている子供にとって最大の支援者になり得るのです。親を責めるのではなく支えることで、子供の苦しさを軽減できる場合は少なくありません。

思春期は、ただでさえ「親子関係」が揺らぐ時期。さらに「学校」や「地域」に居場所をなくしてしまうと、非行グループや、夜の街に身を置くしかなくなります。

私も、我が子が思春期の時に、大揺れ・大荒れを経験したとき、孤立感を覚えました。そこから自助組織を作りたいと、周囲に呼びかけました。非行をしてしまった子供は、警察官、家裁調査官、弁護士、保護司、少年院の教官などなど、大人の支援を受けていきますが、親には支援も少なく、自分や子供の課題に気付くことがなかなかできないのです。

## ◆相談について

親が自分と子供のことを振り返るには、安心して相談できる場が必要です。簡単に解決できることはほとんどありません。相談には、とことん付き合い、一緒に悩み考えて、一緒に歩いていく姿勢で、相談に対応しています。支援者や本人からの相談も受けています。

相談日・時間 平日午後2時から8時 電話 03-5348-7699

(大きな団体ではないため、一度に多人数は受けられませんので、その点ご理解ください)

## ◆自助グループへの参加

ひとりひとりとは全く違う人間です。同様に、同じ家庭というものもありません。自助グループの良さは、「一般論」「正論」で片づけられないそれぞれの実情を語り合い、学ぶことです。同じような体験をした人たちと安心して本音を語り合える場をご案内します。

あめあがりの会の電話 03-5348-7265

## ◆調査研究の活動

非行からの立ち直りに何が必要か、これまでの調査研究で2冊の本を刊行しました。(写真)

●どうぞ、お気軽に私たちの会をご利用ください。

